江戸時代①

人物

徳川家康（関ヶ原の戦いに勝利。江戸幕府を開く）

徳川秀忠（二代目将軍。禁教令を強化）

徳川家光（三代目将軍。参勤交代を定める）

天草四郎（1637 年島原・天草一揆をおこす）

幕藩体制

幕領（幕府の直接の支配地）

藩（大名の領地とそれを支配する組織）

幕藩体制（幕府と藩が領地を支配する仕組み）

- 親藩（徳川家の一族）
- 譜代大名（古くからの徳川の家臣）
- 外様大名（関ヶ原の戦いの頃から従うようになる）

法律

武家諸法度（大名をとりしまる法律）

- 許可なく城を修理することを禁止
- 許可なく縁組・結婚することを禁止
- 参勤交代（1 年おきに領地と江戸の往復を義務化）

大名が江戸に来て主従関係を確認するため

禁中並公家中諸法度（きんちゅうならびにくげちゅうしょはっと）（天皇の役割，朝廷の運営方針）

京都所司代（きょうとしょしだい）（朝廷の監視）→ 鎌倉時代の六波羅探題

その他

身分（武士・百姓・町人・えた・ひにん）

五人組（年貢納入、犯罪の防止の為の連帯責任）

朱印船貿易（東南アジアとの貿易。朱印状の発行）

日本町（日本人が東南アジアに移住してできた町）

島原・天草一揆（1637 年におこった一揆）

絵踏み（踏絵を使いキリスト教信者を発見）

宗門改（しゅうもんあらため）（仏教徒であることを寺に証明させる）

江戸時代②

対外国関係

4 つの窓口

長崎・・・・朝鮮との外交

対馬藩（長崎県）・・・オランダとの外交

薩摩藩（鹿児島）・・・琉球との外交

松前藩（北海道）・・・アイヌ民族との外交

対外関係②

オランダ・中国（長崎で貿易）

朝鮮通信使（将軍の代がわりなどに派遣された）

琉球使節 （将軍や琉球王国が代わると江戸の将軍にあいさつ）

シャクシャイン（アイヌの指導者。松前藩と戦いをおこす）

農業

新田開発（用水路をつくったり海や沼地を干拓）

農具の開発

- 備中ぐわ（鉄製で深く耕すことができる）
- 千歯こき（脱穀を効率よくおこなえる）

商品作物（木綿や菜種など都市に売り貨幣を得る）

三都の繁栄

江戸・大阪・京都の 3 つの都市（三都）が発展

江戸・・・将軍のおひざもと

大阪・・・天下の台所

蔵屋敷・・・年貢米や特産物の販売

株仲間・・・税を納めるかわりに営業を独占

五街道・・・江戸と京都、大阪を結ぶ東海道や中山道など

江戸三大改革

享保の改革

徳川吉宗

倹約令（武士に質素倹約をすすめる）

公事方御定書（裁判の基準を設ける）

目安箱（人々の意見をきく）

上米の制（米を差し出せば参勤交代をゆるめる）

新田開発

1716－1745

（田沼意次の政治）

田沼意次

株仲間の奨励

蝦夷地の開発

印旛沼の干拓

1772－1786

寛政の改革

松平定信

昌平坂学問所で朱子学を学ばせる

旗本や御家人の借金を帳消しにする

1787－1793

天保の改革

水野忠邦

株仲間の解散

異国船打払令をやめる

1841－1843

江戸時代の農具

備中ぐわ

田おこし用のくわ土を深く耕すことができる。

千歯こき

脱穀（だっこく）のための道具。

唐箕（とうみ）

もみすりをしたあと、お米ともみクズをわける道具

千石どおし

玄米(げんまい)ともみとをわける農具

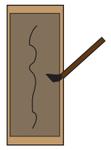
元禄文化

浮世絵　菱川師宣

『見返り美人』

装飾画　尾形光琳

『燕子花図屏風』（かきつばたずびょうぶ）

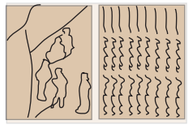


俳句　松尾芭蕉

『おくの細道』

装飾画　俵屋宗達

『風神雷神図屏風』



小説　井原西鶴

『浮世草子』

人形劇　近松門左衛門

『人形浄瑠璃』

化政文化

浮世絵　葛飾北斎

『富嶽三十六景』

浮世絵　歌川広重

『東海道五十三次』

浮世絵　喜多川歌麿

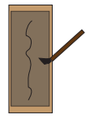
『ポッピンを吹く女』

伊能忠敬

『日本地図』

杉田玄白

『解体新書』



俳句　与謝蕪村

小林一茶

本居宣長

『古事記伝』

十返舎一九

『東海道中膝栗毛』

滝沢馬琴

『南総里見八犬伝』

三都

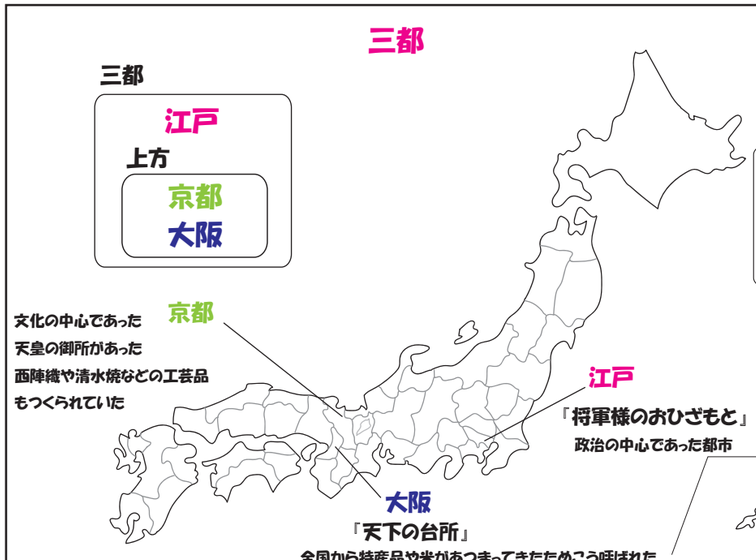
三都

江戸

上方

京都

大阪



京都

文化の中心であった
天皇の御所があった
西陣織や清水焼などの工芸品
もつくられていた

江戸

「将軍様のおひざもと」

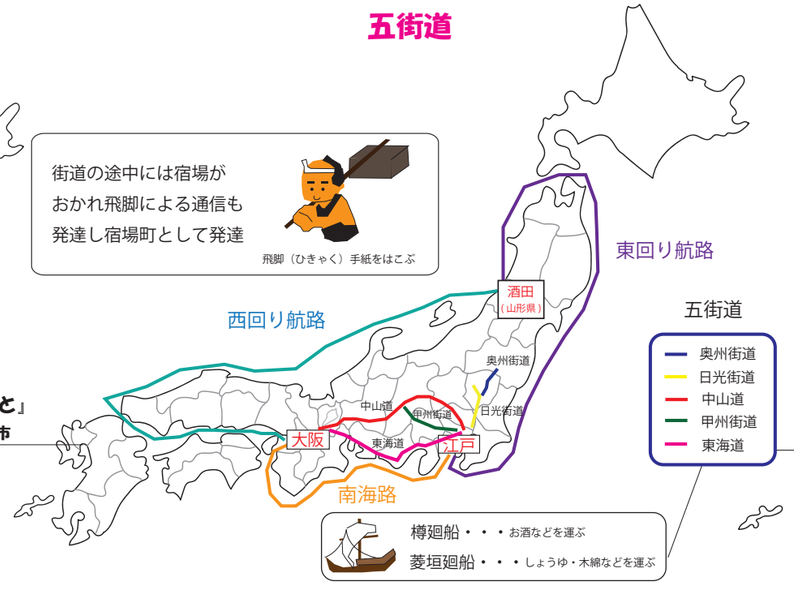
政治の中心であった都市

大阪

「天下の台所」

全国から特産品や米があつまってきたためこう呼ばれた
特産品や米の売買の時使われた蔵屋敷があった

五街道

街道の途中には宿場が
おかれ飛脚による通信も
発達し宿場町として発達

飛脚（ひきゃく）手紙をはこぶ